

東大阪市指定文化財 旧河澄家 ニューズレター

2023年4月発行

vol. 25

かわすみ家

隅角部の石材の長辺と短辺を交互に積み上げ
角脇石でがっちりと固めて強固にする

算木積み

特集 / 企画展示

河内の古民家展

—茅葺屋根と古民家で使われる石材—

pick up!

書道展 / 書道教室

菊花展

昔のくらし体験学習

歴史コラム

日下の壱「生駒山人の墓」

河澄家の自然 貝母

展示・イベントのご案内

2023 端午の節句展
4月22日(土)～5月7日(日)

紙のぼり紙飛行機作りとコンサート
紙のぼり紙飛行機を飛ばして夢を一歩進めよう！
4月23日(日)
13時から15時

紙のぼり紙飛行機作りと鶴の舞い
コンサート:アンサンブルゼバークエ
文 員:15名(3歳以上、未就学児は
保護者同伴)

申込方法:4月1日(水)8時から
HPまたはお問い合わせフォームより

■会場: 河川遊園地
■開催時間: 10:00～16:00
■料金: 無料
■予約: 不要
■問い合わせ: 029-222-1111

■会場: 河川遊園地
■開催時間: 10:00～16:00
■料金: 無料
■予約: 不要
■問い合わせ: 029-222-1111

陶芸展
2023年3月17日(金)～4月16日(日)

3月17日(金) 10:00～16:00 4月16日(日) 10:00～16:00
本展では、本誌陶芸家 塩井孝子さんの作品と付随工芸一輪陶師の教室で製作された
あたたかみのある作品の展示を行います。 展示時間: 10:00～16:00(最終日は15:00まで)

3月17日(金) 陶芸体験教室「お茶まで」
付随工芸 一輪陶師 塩井孝子さんの指導のもと、お茶碗や湯呑み、お茶巾桶、お茶巾など、お茶の文化を
感じながら、お茶の文化を学ぶことができます。 体験時間: 10:00～16:00
お茶の文化を学ぶことができます。 体験時間: 10:00～16:00
お茶の文化を学ぶことができます。 体験時間: 10:00～16:00

■会場: 河川遊園地
■開催時間: 10:00～16:00
■料金: 無料
■予約: 不要
■問い合わせ: 029-222-1111

展示・イベント

「陶芸展」

2023年3月17日(金)～2023年4月16日(日)

「端午の節句展」

2023年4月22日(土)～2023年5月7日(日)

「古民家で手作り和菓子体験」

2023年5月21日(日)

「人形浄瑠璃の世界 - 文楽から乙女文楽まで -」

2023年5月28日(日)

「論語の素読会」

毎月第2・第4土曜日

※休館日・開場時間等はP12「イベントカレンダー」にてご確認ください。



かわずみ家

2023
April
vol.

25

東大阪市指定文化財 旧河澄家 ニューズレター

目次

04 特集 河内の古民家展 - 茅葺屋根と古民家で使われる石材 -

古民家の茅葺き屋根と使われる石材について展示解説

06 日下の嘸 生駒山人の墓

河澄家と相庄屋であった森家の長男のお話

08 イベントレポート

筑前琵琶弾き語り — 悲劇のヒーロー源義経
文学講座 仁徳天皇と若日下部王 — 古代ロマンの世界へ —
秋季ハイキング — 日下、池之端、善根寺の史跡めぐり —
バルーン体験教室
ちりめん細工で和菓子飾り作り&スプリングコンサート
近畿大学峰滝ゼミ REPORT ハロウィン手作り工作 / クリスマス会

10 Pick Up

昔の暮らし体験学習
書道展 / 書道教室
菊花展

12 イベントカレンダー



旧河澄家 バイモ

貝母/アミガサコリ/編笠百合

ユリ科 バイモ属 半蔓性多年草

北庭では毎年2月頃になると寂しかった地面から萌黄色の新芽が顔をだし、春の訪れを感じています。葉は卵形、油断、葉端が波打つが、俯きに数個咲き、葉の先端はくるりと巻かれています。花色は淡黄緑色、中心は濃い黄色の筒状の花筒があり、アミガサコリの花の由来

時々の
花は咲けども
何すれそ
母とふ花の
咲き出来ずけむ



四季折々に花は色々咲くけれど、どうして母という花は咲かないのだろうかというような内容の防人歌のひとつです。母を思う切実な気持ちをバイモの花に喩えて詠まれています。※花についてははつ

『万葉集』巻10 巻 4323 番より

令和4年度

河内の古民家展

茅葺き屋根と古民家で使われる石材

2023年1月20日(金)～2月12日(日)



一月二十日(金)から二月十二日(日)まで河内の古民家展を開催しました。テーマは「茅葺き屋根」と「古民家で利用される石材」です。

およそ十六年前の解体修理時に鋼板の下から姿を現した茅葺きやその屋根組などを解説し、茅葺き屋根とは何か、葺き替え方法、茅の採集方法、日下村庄屋森長右衛門貞靖の日記から屋根の葺き替えについての記録を紹介しました。現存する古民家である川中家住宅(東大阪市今米)、吉村家住宅(羽曳野市島泉)、梶谷家住宅(河内長野市滝畑)、山本家住宅(河内長野市小深)、左近家住宅(河内長野市滝畑)を写真パネルで紹介し、河内の古民家の特徴を概説しました。また、常設展示の天保六年(二八三五)の棲鶴楼棟札や旧河澄家に伝わる絵図を展示し、建物の歴史の変遷を感じて頂きました。

古民家に使用される石材では、旧河澄家に至る所で使用されている石材(礎石、東石、縁石、流し、飛石、沓脱石、井戸、石垣等々)についてパネルで解説し、せっかく古民家に来ていただいたのですから、解説を読んだ後に実際に見て触れていただけるようにしました。

旧河澄家で利用されている石材を観察すると、花崗岩が多く、他に安山岩、庭石に変斑れい岩などもみられます。生駒山地は昭和四十年発行の「枚岡市史 第二巻 別冊」に生駒山地は花崗岩、片麻岩等を主とする深成岩や変成岩から成り立っていること、かなり



古民家で使われる石材についての解説



河澄家に伝わる絵図と蔵についての解説



茅葺き屋根についての解説



ドマ北側の延石



ドマ北西の柱を支える礎石



ドマ北東隅の流しと石臼



敷地西側の石垣



沓脱石と手水鉢、燈籠



下白を再利用した飛石

多種多様な岩質から成り立っていることなどが記されており、旧河澄家で使用されているこれらの石材の産地は、生駒山地と考えられます。

また、旧河澄家が所在する日下は、石材業が盛んであり、かつては近鉄奈良線の孔舎衙坂の駅から大龍寺、旧河澄家前を通って東高野街道に下りていく道路際には石材店と石置場が並んでいました。生駒山地の西麓における石材業を遡ると、豊臣秀吉の大坂城築城の際に、石奉行として足立氏が善根寺に移り住んだ時にはじまると言われています。善根寺村は太閤検地の際には、日下村の枝郷（えだごう）とされていました。

日下では、庭石の名石と呼ばれた生駒石と大正年間に知られるようになった日下石を取り扱っていました。生駒山は変斑れい岩からなる山で、さらにその外側の周縁部に閃緑岩質斑れい岩がとりまいており、ここから採石したものを生駒石と呼び、特徴としては、堅牢にして緻密、加工困難で風化しにくく、他の石材に比べて一割程度重く、黒色或いは灰緑色、表面は粗粒状、粗目で、これを黒く着色して苔を生やすと庭石の名石として重宝され、日下で取り扱う石材の価格の頂点であったといえます。また、一般の方に聞くと、ほとんど知名度のない日下石もパネルで紹介しました。日下石は、知名度はなくとも、おそらく古民家ではよく使われる石材であったと考えられます。



豊かな自然と文化の街、日下
生駒山麓〜日下地域、河澄家の
過去から現在に至るまでのおはなし

生駒山人の墓

日下町七丁目の日新高校テニスコート北に隣接する来照山（きてるやま）に生駒山人（いこまさんじん）の墓があり、昭和四九年に東大阪市史跡に指定されています。

生駒山人は日下村で代々庄屋を務めた森家の出身で、名は森文雄、字名は世傑（せいきつ）で生駒山人と号し、正徳二年（一七二二年）日下村庄屋森貞靖（ていせい）の長男として生まれました。

森文雄は十代前半で大坂の商家、野里屋四郎左衛門家へ養子に入りますが、商人としての修行が性格に合わなかったのか二十一歳で野里屋を離れて日下村に帰り、農業に専念するかたわら漢詩に傾倒、生駒山人と号して頼山陽にも並び称される漢詩人として大成します。山人は伏見の儒学者龍子明（りゅうしめい）（号は公美、草廬）と意気投合し、彼の漢詩結社「幽蘭社」で同社の「金爛詩集」の巻頭を占める活躍を示しました。しかし山人は寛延三年頃から病気がちとなり、宝暦二年（一七五二年）に四十一歳で没しました。その後龍子明によって生駒山人墓碑が刻まれ、また龍子明によって編まれた『生駒山人詩集』

全七巻が宝暦十年（一七六〇年）に刊行されました。それには総計六一九首の漢詩が収められ、亡き母や弟を悼む詩とともに河内や日下の風景を叙した詩も詠まれています。

享和元年（一八〇一年）に刊行された秋里籬島著『河内名所図会』第四巻には「稲田桃林」が紹介され、頁の左上には生駒山人が詠んだ七言絶句の漢詩が添えられています。

誰家年少野村西	誰か家の少年ぞ	野村の西
沙岸停舟路欲迷	沙岸舟を停めて	路迷はんと欲す
十里桃林花未落	十里の桃林	花未だ落ちず
始知身到武陵溪	始めて知る身は	武陵溪に到るか

生駒山人

「武陵溪の桃林」は、中国魏晋南北朝時代の文学者である陶淵明（とうえんめい）の「桃花源記」から引用されています。

新稲法子氏著『生駒山人の詠んだ河内』（懐徳／懐徳堂記念会誌編第八九号）によると、『河内名所図会』「稲田桃林」に添えられた漢詩は、『生駒山人詩集』巻七「河内八景」を詠んだ八首の中の「稲田桃華」（稲田桃華さく）と題されたものです。また日下村の詩にもしばしば桃が登場し、『生駒山人詩集』巻四に収められた「日下四時吟」には「河陽日下村 多少桃果樹」と詠まれ、日下村にも、稲田桃が数多く植えられていた様子がわかります。さらに巻七「栽桃口占」には、「溪邊手植武陵花」（溪邊手づから植ゆ武陵の花）とあり、生駒山人が森家庭園鳴鶴園に自ら桃を植えていたことがうかがえます。

稲田桃は直径約5センチと小ぶりで先が尖っているのが特徴で、春先には濃いピンク色の花を咲かせ初夏に実を結びます。『河内名所図会』にも紹介され地域の主要な農産物であった稲田桃でしたが、より収益性の高い河内木綿の畑に変わり、大洪水の被害にあつたりして次第に姿を消して行きました。しかし二〇〇一年に「楠根リージョンセンター」を中心に稲田地区の地域住民らで構成された「稲田桃再生栽培プロジェクト」が立ち上がり、日下町七丁目の井上家敷地に残されていた稲田桃の樹木から種と、挿し木用に枝が提供され、現在



生駒山人墓碑（龍子明刻）



生駒山人の墓

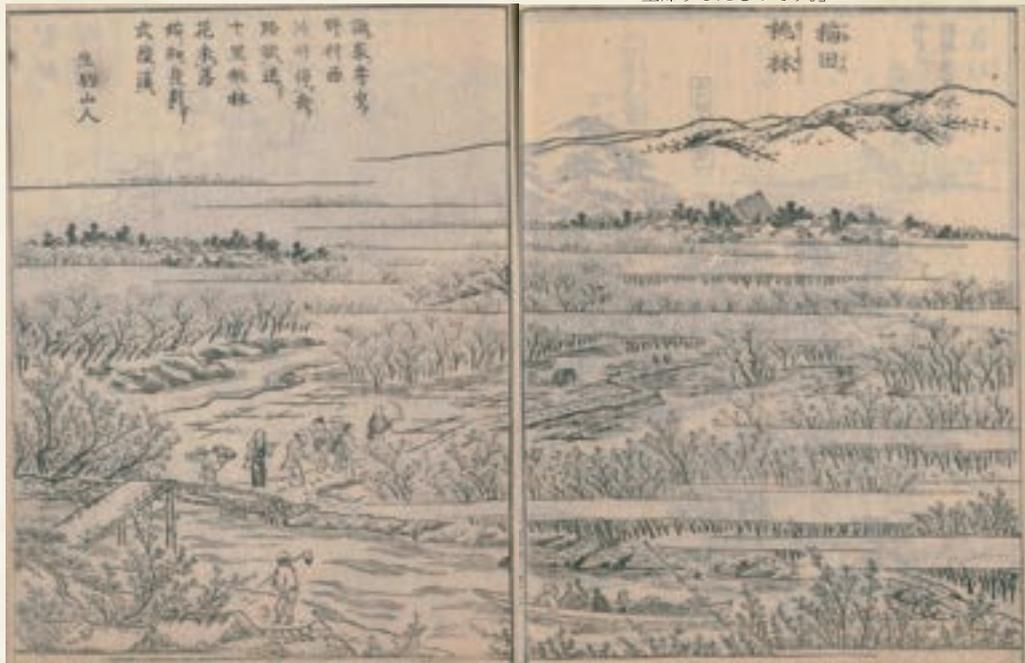
では稲田地区の第二寝屋川堤防沿いの道路や公園など一帯に植えられて春になるきれいなピンクの花を咲かせます。そこでは生駒山人が愛でた稲田桃林の景色を見ることができます。



日下町七丁目井上家敷地の稲田桃樹木



楠根小学校グランド横の稲田桃石碑
「この桃は日下井上家の稲田桃が稲田の地に里帰りしたものです。」



『河内名所図会』第四巻 稲田桃林生駒山人漢詩添書き

旧河澄家にて開催しましたイベント&展示のご報告。
地域の方々と触れ合いながら様々な催しを致しました。
詳しいイベント情報はホームページにも掲載中です。

Kawazumi Report

筑前琵琶弾き語り

―悲劇のヒーロー源義経

二〇二三年十月二十九日(土) 開催

筑前琵琶日本旭会教授で筑前琵琶奏者の門井旭蓮氏をお招きして筑前琵琶弾き語りを開催しました。公演では「悲劇のヒーロー源義経」と題して、武蔵坊弁慶との主従関係を結ぶ出会いを描いた「五條橋」と、奥州平泉で非業の死を遂げた場面の「衣川」の演目を、筑前琵琶を弾きながら語りを入れる弾き語り鑑賞しました。演奏の前後では筑前琵琶の歴史や楽器としての特長など解説を交えての公演で、多くの参加者からは「生の琵琶演奏を聴くのは初めてで迫力があってよかった」など日頃体験することの少ない特別な機会となりました。



門井旭蓮氏



筑前琵琶弾き語り会場の様子

文学講座仁徳天皇と若日下部王

―古代ロマンの世界へ―

二〇二三年十一月二十日(日) 開催

元大手前大学助教授藤井千年氏をお招きして、仁徳天皇と、その皇女で日下に居住した若日下部王(わかかきかべのみこ)についての講演会を開催しました。講演では古事記や日本書紀に記された仁徳天皇や同時代の皇族に関する逸話を、それぞれの場面で詠まれた和歌を交えて紹介いただきました。また雄略天皇が若日下部王に会う為に、大和から日下の直越(ただごえ)を通って妻間に来たという日下の古代に関連する話など参加者の関心を集めました。最後は恒例の藤井先生の熱唱を聞かせていただき、楽しい講演となりました。



藤井千年氏



文学講座会場の様子

秋季ハイキング

二〇二三年十一月二十七日(日) 開催

平城宮跡や東大阪でボランティアガイドをされている川向章介氏の案内で、旧河澄家を出発し、江戸時代中期、日下出身の儒学者である生駒山人の墓を皮切りに、池之端春日神社、善根寺春日神社、大坂城残念石、足立家屋敷跡、向井家住宅、安岡正篤旧宅、最後に国史跡であり、現在はただ看板によってのみその場所が知れる日下貝塚を巡るハイキングを開催しました。

当日は澄み切った秋晴の空が広がり、小学生でも参加できるほど歩きやすく、近所を散策しているような感覚で神社や旧跡をたどることができました。皆さん熱心に川向さんの話に耳を傾け、「地元の歴史を知ることが出来て良かった」「とても楽しかった」「説明がわかりやすかった」など、うれしい感想を寄せていただきました。



川向章介氏



日下貝塚の前で解説を聞く参加者



旧河澄家HP
イベント情報

旧河澄家HPイベント情報ページ→ <http://www.kyu-kawazumike.jp/eventinfo/>
Facebook情報ページ→ <https://www.facebook.com/kyukawazumike>
Twitter情報ページ→ https://twitter.com/kyu_kawazumike
Instagram情報ページ→ https://www.instagram.com/kyu_kawazumike/



まぎーマモル氏 (中央)



作ったサンタクロースを持って記念撮影

東大阪市を中心に各地でマジックバルーンショーをこれまでに三千回以上開催されている、まぎーマモル氏の指導によるバルーン体験教室を開催しました。クリスマス風の季節ということで今回は細長いカラフルな風船であるバルーンを使ってサンタクロースを作りました。小学生に交じって保護者など大人もサンタクロース作りに挑戦し、顔や胴体などのパーツ毎に、夫々の色のバルーンを曲げたり、ひねったりして作り上げて行き、それらを連結して完成します。風船が割れるのが怖いといいながらも皆それぞれバルーン体験を楽しみ、かわいいサンタクロースが出来上がって楽しいイベントとなりました。

バルーン体験教室
二〇二三年二月三日(土)開催



コンサートの様子



出来上がったちりめん細工

桃の節句展開催に合わせて、ちりめん細工で和菓子飾りを作った後、コンサートを鑑賞するイベントを開催しました。ちりめん細工の和菓子飾り体験では松よし人形の指導の下で、予め準備された材料を巻き付けたり貼ったりして花やウサギ、そして団子と最中を作ったり、器に飾り付けて行きます。小学生から大人まで幅広い年齢層の参加者達はそれぞれ講師や指導員のアドバイスを受け、手作りのかわいらしい和菓子飾りが出来上がりました。アンサンブルビバーチェによるスプリングコンサートでは参加者達は人気アニメのテーマ曲からひな祭りの曲など十曲あまりを鑑賞し、途中で楽器ごとの部分的な演奏を聴いて曲名を当てる曲当てクイズで楽しみながら、早春の楽しい一日を過ごしました。

ちりめん細工で和菓子飾り作り
& スプリングコンサート
二〇二三年九月二十五日(日)開催

峰滝ゼミ



工作を見せる子供たちと
サンタに扮する峰滝ゼミ生

最後にサンタクロースに扮したゼミ生からプレゼントを渡すサプライズを行い、充実した会になりました。

「ハロウィン手作り工作&だんじり囃子」を十月十日(月)に、「クリスマス会」を十二月十八日(日)に行いました。十月のハロウィン工作ではお菓子入れバックを作り、子どもたちはパンプキンやおバケをモチーフにした可愛い物を作っていました。だんじり囃子では、迫力ある演奏に皆興味津々で聞き入っており、大盛況の会になりました。十二月の工作では、サンタやトナカイを折り紙で作った物に顔や服をデザインしたり、願い事を書き入れました。レクリエーションではスリーヒントクイズ、ジェスチャーゲームを行い、皆が積極的に参加してくれたので、ゼミ生も楽しみながら運営ができました。

近畿大学
KINDAI UNIVERSITY



峰滝ゼミ企画運営による



だんじり囃子を聞く参加者

地域の書道展

新型コロナウィルス感染症の影響を受けながらも日下地域在住で、ご活躍のふたりの書家川上佳香さんと、深川秀鳳さんにご協力いただき、十二月一日より二期に分けて、ふたりの書家作品と生徒のみなさんによる書道作品を展示しました。

期間中、主屋に飾った生徒のみなさんののびのびとした、丁寧な作品をご家族の方がみに来られ、和やかな雰囲気でご覧されていました。

書道教室の先生であり書家でもあるふたりの書作品は、奥座敷「棲鶴楼」床の間にて展示し、彩りを添えました。

今回で第二回めとなる書道展期間中に、それぞれの指導経験と技術をいかした書道教室を開催しました。

パソコンやタブレット端末の普及で、文字を手書きする機会は減り、コロナ禍でのリモートの活用等の影響で、ますますデジタル化が進んでいく一方で、手書きのよさも見直されています。

第一回「筆ペンで名前を書きましょう」講師川上佳香さんの書道教室では、年賀状、芳名帳やお祝儀袋等を書く筆ペン文字を学びました。住所と名前のお手本を書いていただき、筆ペンを使って練習し、ご指導いただき、美文字のコツを学びました。

第二回「筆を使ってオリジナルの干支カレンダーづくり」講師 深川秀鳳さんの書道教室で

は、筆を使って縁起のいい干支のデザイン書を書きました。お手本をみながらリズムミカルに筆運び、躍動感あるデザイン書の干支カレンダーを完成させ、開運を祈りました。地域の書道展や書道教室を通して、手描きで文字を書く楽しさや喜び、日本文化のひとつでもある書道の良さを再認識したのではないのでしょうか。



第一回「筆ペンで名前を書きましょう」



第二回「筆を使って干支カレンダーづくり」

て出揃っておらず、花の開花状況を見て順次展示していくので、期間の後半が見ごろとなりました。

菊花愛好家有志の会メンバーの川上朝次郎さんは、「菊は一年中やらないといけない」と言います。菊を手塩にかけて育てると言うのはそのとおりで、水のやり方、肥料のやり方、葉の間引き方、花を整える方法に、花びらの間引き方など、ほぼ年中、手をかけねばならず、話を聞くだけで、そのたいへんさに頭が下がります。菊の花の美しさは、育てた人の手のかけ具合がそのまま表れているといえます。今年も、地域の人達に菊を楽しんで頂けたのではないのでしょうか。

菊花展

毎年恒例の菊花愛好家有志の会主催の菊花展が十月二十二日(土)〜十一月二十日(日)に開催されました。菊花愛好家有志の会のメンバーである川上朝次郎さん、田平米男さん、藤井滋さんが手塩にかけた菊、五十鉢を旧河澄家の主屋軒下に展示してくれました。

今年も猛暑だったため、菊の出来が良くないと三人中お二人までが渋い顔をされていました。が、軒下に集まってきた菊は綺麗に咲いていました。

実は、十月二十二日の開催初日には、菊は全



今年も主屋軒先に集合した菊花

昔のくらし体験学習

2022年度

今年度は近隣の三校の子供たちが、昔の道具体験と道具見学のために、旧河澄家を訪れました。まずは、一月十七日（火）に地元・孔舎衛小学校三年生七十九名と引率教諭五名、二月七日（火）に上小阪小学校三年生七十二名と引率教諭六名、二月十四日（火）のバレンタインデーには、石切小学校三年生一二六名と引率教諭六名が来てくれました。

三校合計二七七名の子供たちには、旧河澄家で収穫した河内木綿を綿繰り機を使って繊維と種に分離してもらった綿繰り、火打鉄（ひうちがね）と火打石を擦るようにして火花を出す火打ち、石臼で大豆を挽いてきなこにしてもらう体験をしていただきました。また代々庄屋であった河澄家の主屋と蔵、そしてそこに残された昔の道具もあわせて見学していただきました。

いずれも、たくさんの子供たちに体験してもらうため、十分な時間をかけてじっくりやることはできなかったのですが、事前学習をしっかりとって来られた学校もあって、子供たちも昔の道具体験には興味津々でした。

後日、孔舎衛小学校と石切小学校の先生が子供たちの感想文を届けてくれたので、スタッフ一同うれしく読ませていただきました。



流しのところで石臼体験



カマヤで火打ち体験



綿繰り体験



挽いた大豆できなこができる



火打ち道具をメモする子供たち



綿繰りで分離した綿



届けられた感想文



蔵の見学



主屋を見学



2023年4月～ 旧河澄家 イベントカレンダー

沢満は、池や田に自生する水草で、古くは貴族の車や武具の文様として用いられました。葉の形が矢に似ることから、別名「勝ち草」とも呼ばれ、武家の家紋として人気がありました。

※イベント日程は本誌発行時の予定ですので、都合により多少前後する可能性があります。詳しくはお問合せください。

たったひとつのあたたかみのあるお香立て 陶芸展

3/17(金) ~ 4/16(日)
石切工房 桜陶庵の講師で陶芸家の桜井智子さんの大作「アスカラノヒビ・・・」1点、生徒さんのお香立て作品72点を展示します。



お香は、飛鳥時代に仏教伝来とともに日本へ伝えられ、平安時代には貴族文化、江戸時代以降は一般庶民にも広がり、親しまれてきました。現在では、お香立てやお香皿でも楽しみ、日々の暮らしに香りを取り入れられるようになりました。

見学無料

端午の節句展

4/22(土) ~ 5/7(日)



端午の節句は、別名「菖蒲の節句」ともよばれます。菖蒲のもつ抗菌や鎮静などの薬効が邪気を払うと信じられるようになり、菖蒲の葉を軒下に吊るしたり、根を刻んで入れたお酒を飲んだりしました。後に邪気を払い、男の子の立身出世を願う年中行事となりました。企画展示「端午の節句展」では、河澄家に伝わる甲冑や、一般の方からの寄贈である鯉のぼり、五月人形を展示します。

古民家で手作り和菓子体験

5/21(日)



昨年、大好評だった東大阪の和菓子店の「菓匠庵 白穂」指導による季節の和菓子作り体験です。職人さんから和菓子の材料についての話や、作り方、道具の使い方を学びながら上生菓子の練り切り細工2種類(テッセンとアサガオ)を作ります。歴史がある旧家の穏やかな雰囲気の中で楽しく体験しませんか。作った和菓子はお持ち帰りいただけます。参加費は500円です。

きゅうかわずみけ

論語の素読会

毎月
第2・第4
土曜日



声に出して文字を読む「素読」。素読は、江戸時代の寺子屋で活用されていた学習方法でした。素読で読む文書として中国の古典「四書」がよく使われています。その中のひとつに「論語」があります。「論語」は、孔子とその弟子の中でも優れた人物たちの言葉をまとめた書物で、心を打つ章句が詰まっています。古来から大切にされてきた生き方や考え方を学びませんか。

参加無料

東大阪市指定文化財 旧河澄家

見学無料

所在地 〒579-8003 大阪府東大阪市日下町7丁目6-39
電話番号 TEL/FAX 072-984-1640
ホームページ <http://www.kyu-kawazumike.jp>
開館時間 午前9時30分～午後4時30分
休館日 月曜日(祝日の場合は翌日)
祝日の翌日・12月29日～1月3日
入館料 無料
駐車場 5台(無料)
満車の場合は、近鉄けいはんな線「新石切駅」周辺の有料駐車場をご利用ください。

◆アクセス方法

公共交通機関をご利用の場合

- 近鉄奈良線「石切駅」より徒歩約20分
- 近鉄けいはんな線「新石切駅」より徒歩約20分
- 近鉄奈良線「東花園駅」または近鉄けいはんな線「新石切駅」より、近鉄バス「四条畷行き」または「住道行き」に乗り「南日下」バス停より徒歩15分
- JR学研都市線「住道駅」または「四条畷駅」より、近鉄バス「東花園駅前行き」に乗り「南日下」バス停より徒歩約15分

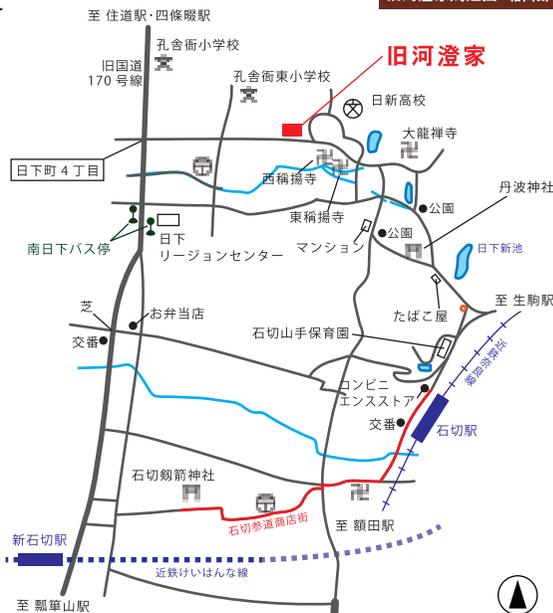
マイカーをご利用の場合

- 旧国道170号線「日下4丁目」交差点を東へ、約600m直進

◆指定管理者 株式会社アスウェル TEL:072-939-7861 FAX:072-952-4340

URL <http://www.asuwell.co.jp>
E-mail mail@asuwell.co.jp

旧河澄家周辺図(詳細)



株式会社アスウェルは、総合ビルメンテナンス会社として、次の認証を取得しています。



JISQ9001:2015(ISO9001:2015)/全事業所
JISQ14001:2015(ISO14001:2015)/全事業所
建築物総合保全管理・施設保守管理・建築物衛生管理・人材派遣・警備保守・指定管理

